蓬岳

夕飯の膳つき出して安行鶴
五月雨や五雜あつまる屋の里
昨の夏や走りて来る折戸口
初くをきを帰や舟の夜の人
若了あるつく葉安く短出
秋若に通ひちのき種成れ
行せんに月の岬新もちききき
時は日のもちぬ春の新く
夜の夜な瀬よせの枕の雪
出せくつ子をく三葉新葉
程は出し帰をきあり寝付分
花ちりし枝の付めくちれ
真舟の木戸出て見田肖江
あく火の弟ふくはきる新れ
柳ふく新風の見し行き西
春常しや晴ふくうし面白うけ

露山　笠海　きく雄　新甫　理林　にき蛍　芳竹　君兵　挽華　あや蛍　春乗　寐る　雉仏　舟花　素由　江三

川原くつ笑居のとうきの花桃
明けをきやって寝の月新宝夜
自比さそを新く秋の月やての桃
萩の家や忍の見て夜る坂
何ら子出し牡丹あめちり見せ
仇夢のう時ちの一里古宿
川舟の流をくらめて新一公
味あらき割く三笠や麦の秋
山さくらや市日きのなり初旅
人葉き門をてきもて牡丹れ
訪ひの庭や卯月の水うつ里
きし行まそくつて夜の麦嫁
白掛の旅出させて新宿の別し
鏡餅見て妨の夜も見て芳紫代
退をけうし衣へきある宿の札
時のうちまく絶街てくの旅

多代女　梅裡　一清　李曠　帆足　公来　淡音　越池　子傑　素居　麦秀　葉菊　梅年　習作　煙外　元史

よりく病よ命を捨ひて夜は
逢きのいらむ菊る未来の路を
人来をよ夏も今年の旅の札

麦翁

辛酉夏

玲波古